

特別分科会②【大学生と高校生の共創】

大学生と高校生の共創が作り出す物語とは
～高校生と大学生が描く未来～

〔報告者〕 上口 貴子（福知山公立大学 地域経営学部 4 回生）

〔報告者〕 清永 雄亮（龍谷大学 文学部 4 回生）

〔報告者〕 宮内 裕大（京都府立大学 公共政策学部 4 回生）

〔報告者〕 澤井 洋一（京都府立城南菱創高等学校 教養科学科長／学科・企画推進部長）

〔コーディネーター〕 滋野 哲秀（龍谷大学 里山学研究センター 客員研究員）

高校生の実践型探究学習を応援する高校生マイプロジェクトアワード。それは、探究学習・マイプロジェクトを実行した全国の高校生が活動を発表し、参加者との対話を通して自分と向き合う学び合いの場である。マイプロジェクトアワードの事務局を担当する大学生はなぜ、この運営にかかわろうと思ったのか。そしてこのプロジェクトへの高校生の参加支援をする高校教員は何を期待しているのか。それぞれの報告をもとに議論する。

概 略

コーディネーターからこの分科会の趣旨説明を行った後、高校生マイプロジェクトアワードの事務局を担当している大学生 3 名に事務局の運営にかかわろうと考えたきっかけや思い、運営に参加することで自分自身にとってどのような変化があったのか、今後の進路などについてスライドを交えながら報告してもらった。

報告の中では、報告者が高校学中の探究活動の経験（探究活動の経験がない学生も含めて）や高校における探究活動支援、マイプロジェクトにおける活動内容、活動にかかわる中での考え方の変容、そして現在のそれぞれの進路について、高校生の活動を支える側からの活動内容とそれぞれの心の動きが語られた。

一方、このプロジェクトに高校生の参加支援をしている高校教員からは、総合的な探究の時間におけるカリキュラムの中でのマイプロジェクトの位置づけ、参加した生徒の変容などの事例を交えた報告が行われた。

その後、4 人の報告について参加者からの質疑応答を行い、高校における探究について議論を行った。

全体討論の内容

3 名の学生からの報告の中で最も印象深い点として、大学に入学した時点でコロナ禍となり、入学式も開催されない状態で大学生活がスタートし、学生生活の大半がコロナ禍による制限下での活動であった点があげられる。

そうした状況の中で、質疑応答を通した学生の語りからは「地元で感じたモヤモヤがマイプロジェクトを通してそれが解消されるかも」といったマイプロジェクトにかかわる理由や「高校生の探究活動の支援者としてかかわる中で、関わった高校生の行動力や背中を押す存在の大切さなど」について心が動いたことなどが生き生きと語られた。また「これからも関わっていきたい」という言葉からは、マイプロジェクトという活動を支える側の学生としての頼もしさが伝わり、こうした活動の大切さを共有できた。

また、高校で探究活動を経験してこなかった学生からは、スタッフとしてかかわることで高校生がプロジェクトを発表することに衝撃を受けたことや全国サミットにおいて賞が伴うために様々な思いや感情が交錯するプロジェクトを発表する高校生をみて悩んだこと、支える側の役割を実感したこと、やりがいを感じたこと、今後、高校教員として高校生の学びと成長について考えさせられる経験であったことなど大学の授業では経験できないことが気づけたことを共有できた。

高校で探究活動を経験し、教員の言葉に乗せられて自身がマイプロジェクト関西サミットに参加したという学生は、サミットのファシリテーターから声をかけてもらい、高校時代の探究を、もっと何かできたのではと考えてマイプロジェクトの運営やファシリテーション、高校でのメンター、伴走や大学の授業サポートを行うなどの活動に参加したことを紹介し大学院での研究について語ってくれた。

高校教員への質問では、高校の3年間のカリキュラムについてマイプロジェクトを1年生の探究活動のアウトプットの場として位置付けていること、それによって2年生での探究活動のレベルが上がり、生徒が成長することなど、具体的なカリキュラムの事例と生徒の変化を共有することができた。

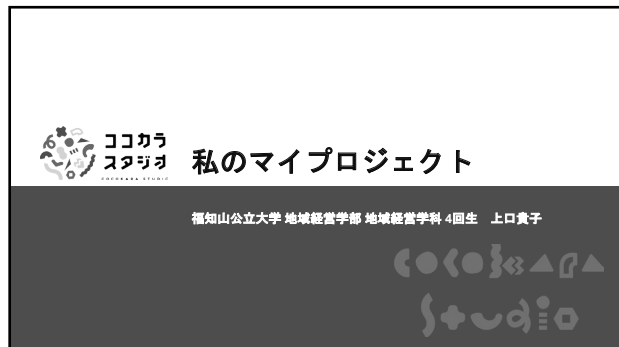
到達点と今後の課題

学習指導要領の改訂により、高校では「総合的な学習の時間」から「総合的な探究の時間」となった。教科書がない総合的な探究の時間のカリキュラムをどうデザインするのか、教員はどのようにかかわればいいのか模索している学校が多くある。そうした中で、本分科会の報告からは、探究活動の実践とともにマイプロジェクトという活動を通した高校生と大学生との共創について議論することができた。

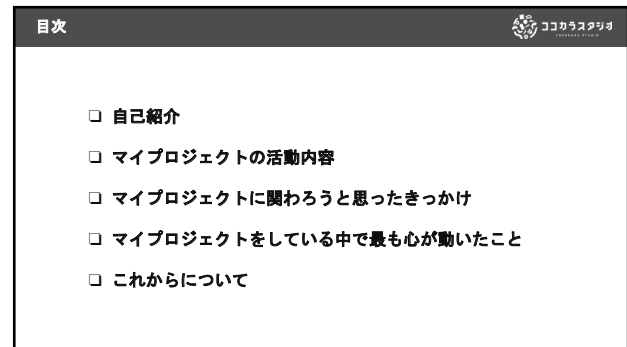
高校生がプロジェクトを発表するサミットの意義、さらに高校における探究活動だけでなく、探究を通した高大の接続、義務教育からの探究活動を含めた教育に関するトランジション、教員の役割などこれからの社会を創造する担い手をどう育てるのか、様々な視点から議論する場を用意する必要がある。



スライド1



スライド2



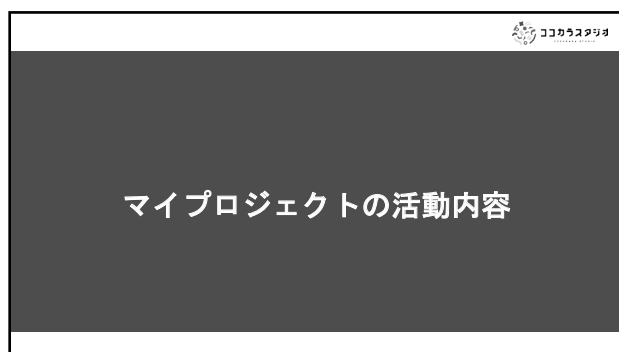
スライド3



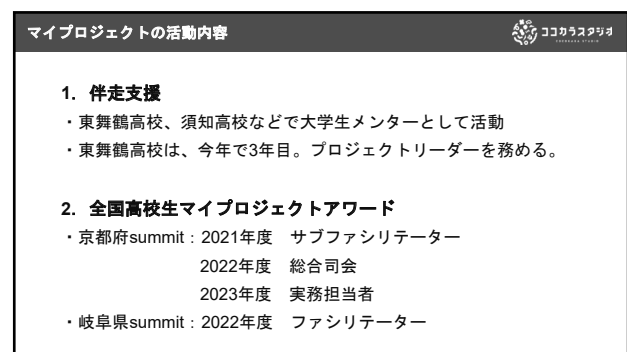
スライド4



スライド5



スライド6



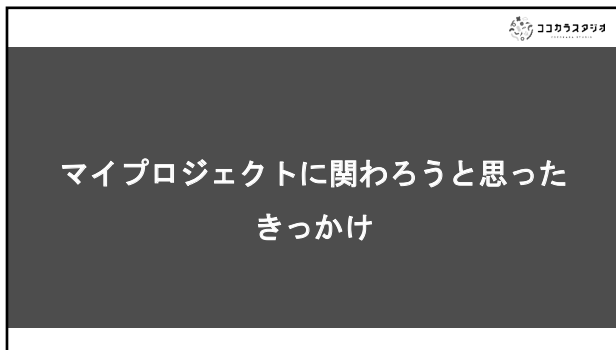
スライド7



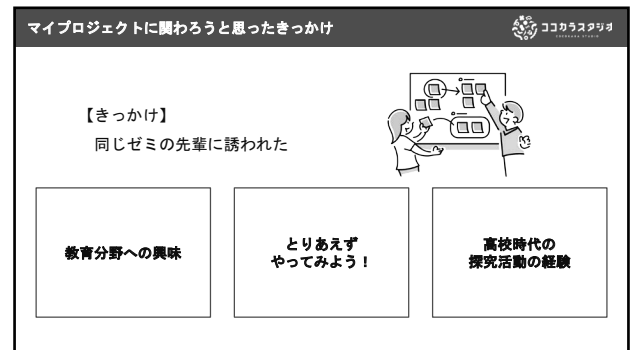
スライド8



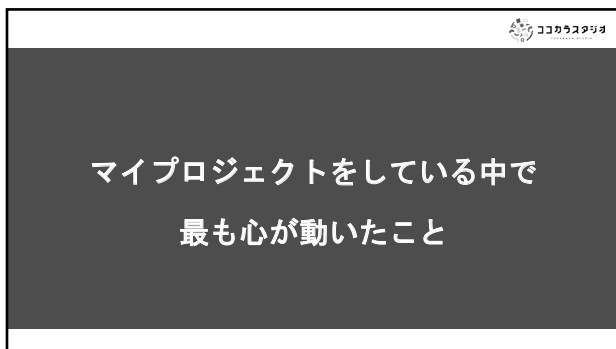
スライド9



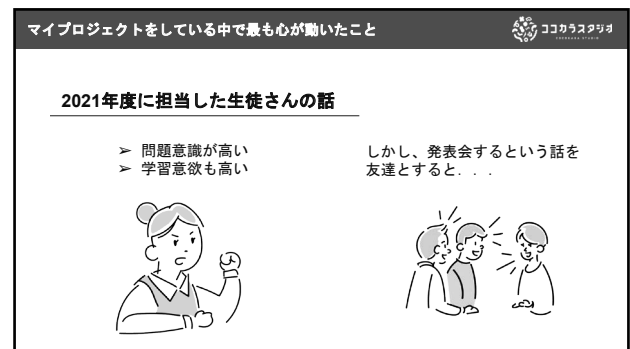
スライド10



スライド11



スライド12



スライド 13

マイプロジェクトをしている中で最も心が動いたこと

ココカラスタジオ

2021年度に担当した生徒さんの話

➤ 京都府summitにエントリー
➤ 京都府summitでプロジェクトを発表



自分を変えられる
行動力と勇気がすごい！

背中を押す存在の大切さ

スライド 14

マイプロジェクトをしている中で最も心が動いたこと

ココカラスタジオ



地元で感じたもやもや



マイプロジェクトを通して
それが解消されるかも！

マイプロジェクトにかかわり続ける理由

スライド 15

ココカラスタジオ

これからについて

スライド 16

これからについて

ココカラスタジオ

これからも関わっていききたい！
一番の支援者でありたい！

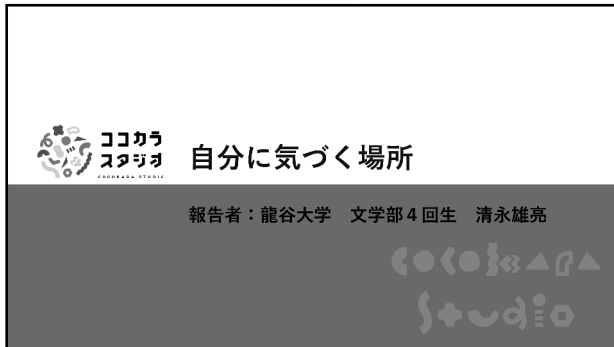


スライド 17

ココカラスタジオ

ご清聴ありがとうございました

スライド 1



スライド 2



スライド 3



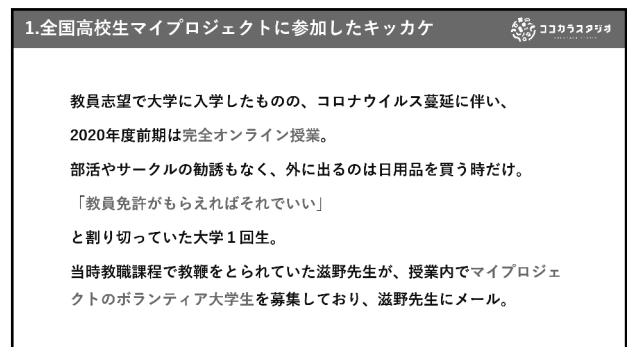
スライド 4



スライド 5



スライド 6



スライド7

1.全国高校生マイプロジェクトに参加したキッカケ

ココカラスタリヲ

当時はマイプロジェクトはおろか、探究学習すら聞いたこともない状態。もちろん実体験もない状態。

ただ、このまま大学生活が終わる恐怖と、自分から動かなければ何も始まらない危機感が、メール、そして全国高校生マイプロジェクトに参加することになった最初のキッカケ。

スライド8

1.全国高校生マイプロジェクトに参加したキッカケ

ココカラスタリヲ

説明を聞いていく中で、マイプロジェクトや探究学習の考えが自分の教育観と重なり、本格的にボランティアスタッフとして参加するようになる。

高校生のうちから、大学や将来のことを語れる高校生がいる衝撃

スライド9

2.全国高校生マイプロジェクトアワード
2021全国Summit

ココカラスタリヲ

初めて心から熱くなれた経験

スライド10

2.全国高校生マイプロジェクトアワード2021全国Summit

ココカラスタリヲ

○開催概要

- ・2022年3月25日～2022年3月27日（3日間・オンライン）
- ・各地域Summitで選出された48プロジェクトが集まり、互いの発表や対話を通して学びを深めていく「学びの祭典」
- ・発表パートとホームチームパートがあり、発表パートでは高校生が自身のプロジェクトを発表し、ホームチームパートでは大学生をはじめとした大人と、アワード内の学びの振り返りを行う。
- （ホームチーム：大学生や社会人2,3名と高校生10名程度で構成されるグループ）



スライド11

2.全国高校生マイプロジェクトアワード2021全国Summit

ココカラスタリヲ

○「こんなこと学びました！こんな成長できました！」と言って帰れるように

全国Summitは、「文部科学大臣賞」など名前のある賞が授与される場所。当然、参加してくる高校生の頭には「〇〇賞」がちらついている。

「たくさん学びを持ってかえります！」と表向きでは晴れやかでも、隠し切れない表情や感情。

そんな彼らの思いを否定せず、それでも一人一人のプロジェクトに、かけがえない学びがあることを伝えるにはどうしたらよいか、悩み続けた3日間に。

スライド12

2.全国高校生マイプロジェクトアワード2021全国Summit

ココカラスタリヲ

○「こんなこと学びました！こんな成長できました！」と言って帰れるように

それでも、高校生のアワード内での悩みや葛藤、そしてやり切った表情を見たときに、その感情を冷静に言語化して、高校生と共有するという支える側としての役割を実感。

スライド 13

2.全国高校生マイプロジェクトアワード2021全国Summit
ココカラスタジアム

○8ページの学びの記録

最終日に間に合うように、3日間での高校生の写真とコメントをまとめた8ページのドキュメントを作成。

おせっかいと分かっていても、ふとした時に彼らが
見返せるように、何か学びを形に残してあげたいという気持ちから夢中になって作っていた。

→子どもたちに無償で尽くしてあげることに対して、やりがいを感じることに改めて気づく。

スライド 14

3.こんどは教員として。

高校生の「学び」に一番近くで寄り添う

スライド 15

3.こんどは教員として。
ココカラスタジアム

○今度は教員として（あとがき）

全国高校生マイプロジェクトにボランティアで参加してきた中で、「学び」とは何か、「成長」とは何か、たくさん考えさせられる経験してきました。

- ・「学び」とは、「自分の経験に意味づけをしてくれるもの」
- ・「成長」とは、「新しい自分の可能性に、自分自身で気づくこと」

これが今のわたしの答えです。

スライド 16

3.こんどは教員として。
ココカラスタジアム

○今度は教員として（あとがき）

来年の4月からは京都府の高等学校の教員として教壇に立ちます。

教員を目指したのも、全国高校生マイプロジェクトの中で、生徒の感情に寄り添いきれない、大学生としての立場上の限界を感じたからです。

そんな全国高校生マイプロジェクトは、高校生に対する自分の熱意に気付かせてくれた場所でした。

今度は教員として、この「学び」と「成長」に一番近くで寄り添っていきます。

スライド 17

○全国高校生マイプロジェクトアワード
2023京都府Summit

開催日時：
2024/1/20（土）

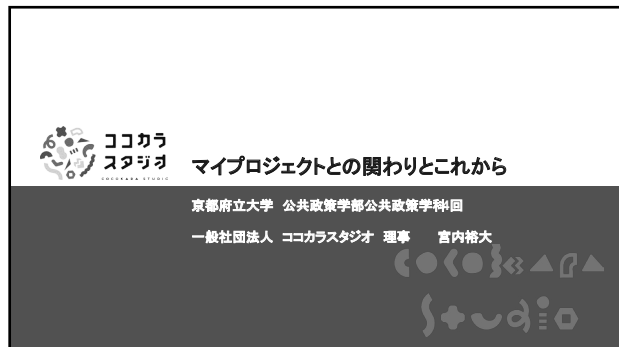
開催形態：ハイブリッド（オンライン＋対面）

エントリー期間：
2023/11/1（水）～12/8（金）17:00

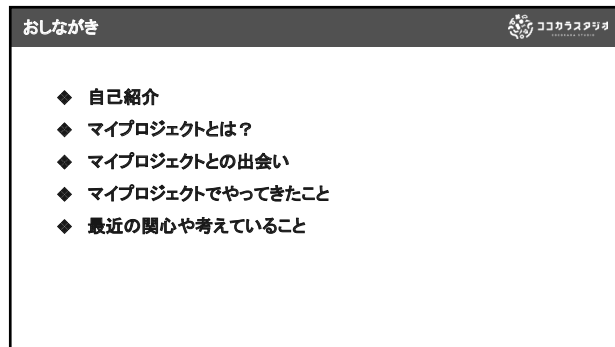
スライド 18

ご清聴ありがとうございました。

スライド 1



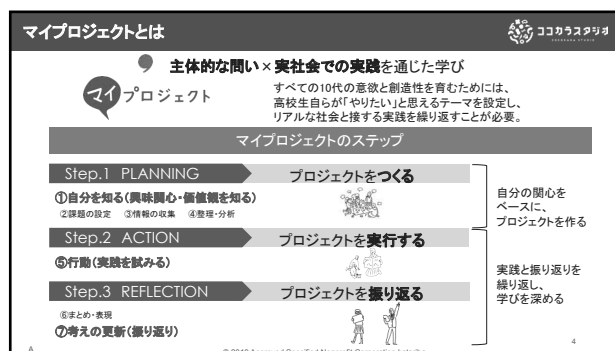
スライド 2



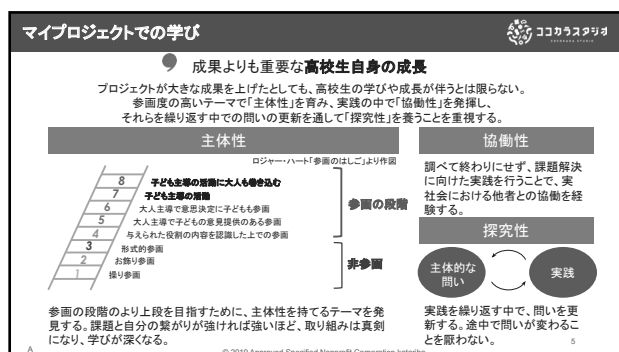
スライド 3



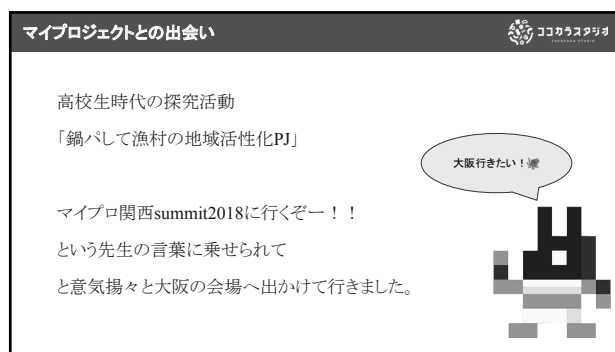
スライド 4



スライド 5



スライド 6



スライド7

マイプロジェクトとの出会い

大学進学後、
関西summitでファシリテーターをしていた方に
お声がけいただき関わることに

高校時代の探究の消化不良感
「何かまだできたんじゃない？」

おもろそうやん！

スライド8

マイプロジェクトでやってきたこと

1. マイプロジェクトアワードでのファシリテーション・運営
2. 高校でのリフレクション・メンター
3. 課外の時間での伴走支援
4. 金沢大学でのちょこプロ(集中講義)のサポート
5. 大学生版マイプロジェクトの設計・実践

などなど・・・

スライド9

最近の関心や考えていること

- ❖ 探究に学校外から関わることの意味づけ
 - ユースワーク的関わり
 - ナナメの関係
- ❖ 探究を通じた若者の社会参画のエンパワメント
 - 身近な社会への影響力
 - 「社会に生きる市民である」という市民性の涵養
- ❖ Youth workと探究
- ❖ 誰でも関われるけど、誰にでもできることじゃない

スライド10

最近の関心や考えていること

- ❖ ユースワーク
 - 包括的な若者に対する支援
 - 英国で生まれた概念、英国・北欧といった欧州において活発
 - 若者が「大人」になるための移行期の支援
 - 主に学校外の社会教育分野での取り組み(教育に関して言えば)
 - 居場所(サードプレイス)づくり
 - ユースのやりたいことをやってみる
 - ユースカウンシル

スライド11

最近の関心や考えていること

- ❖ ユースワーク
 - 民主制(Democracy)を担う人となる
 - 探究のサイクルを通して、自分を発見する
 - そのお手伝いをするユースワーカーの存在

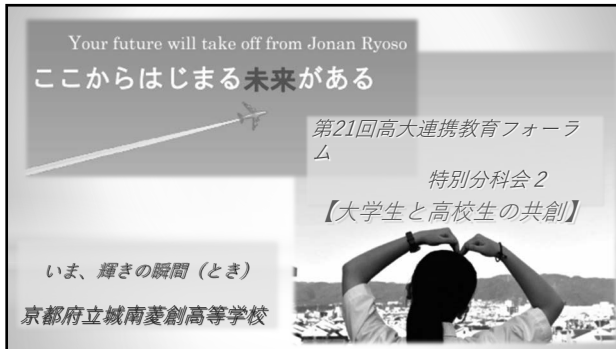
スライド12

最近の関心や考えていること

KATARIBA ONLINE for Teens

全国の高校生と問いを育み
実践しあうオンラインプログラム
・「やりたい！」を日常的
挑戦をカタチにする場

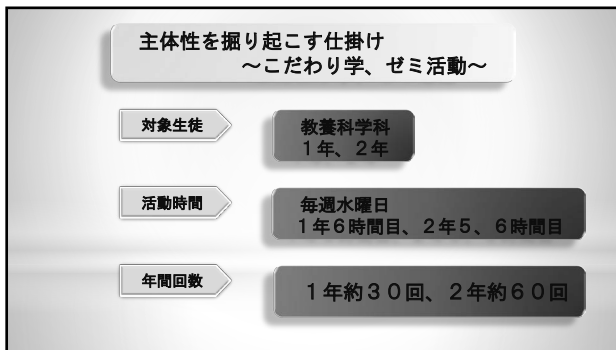
スライド1



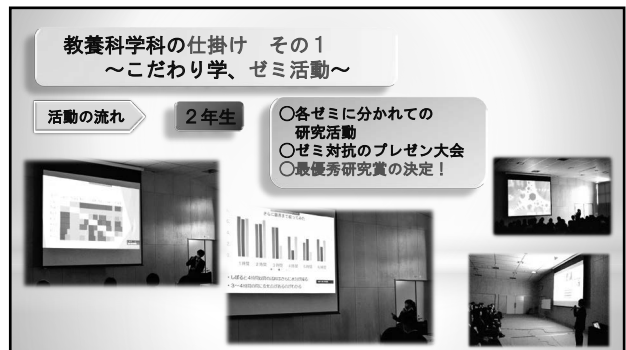
スライド2



スライド3



スライド4



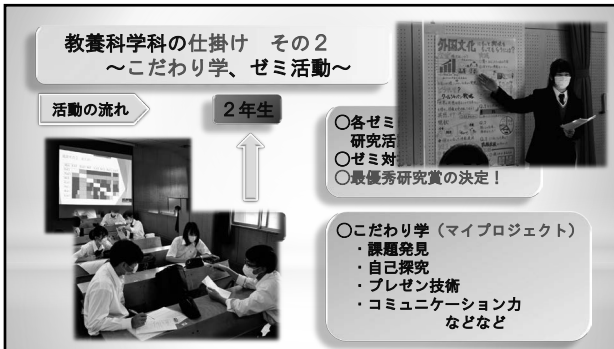
スライド5



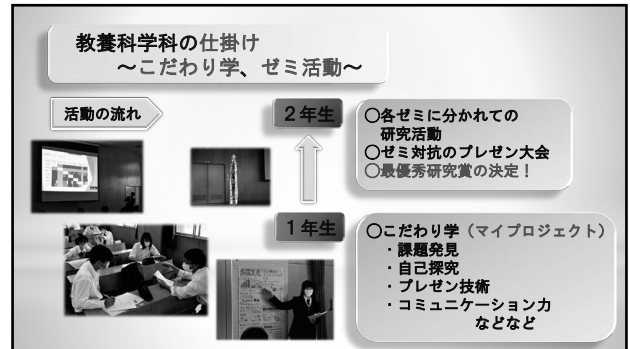
スライド6



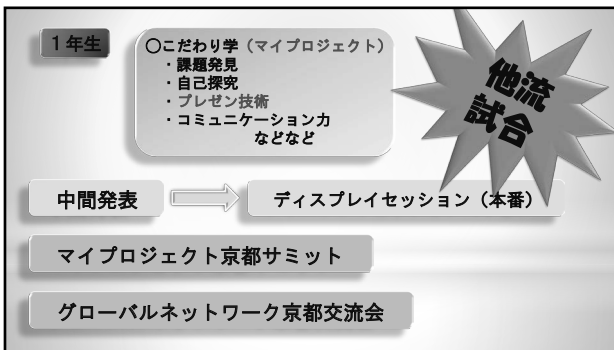
スライド7



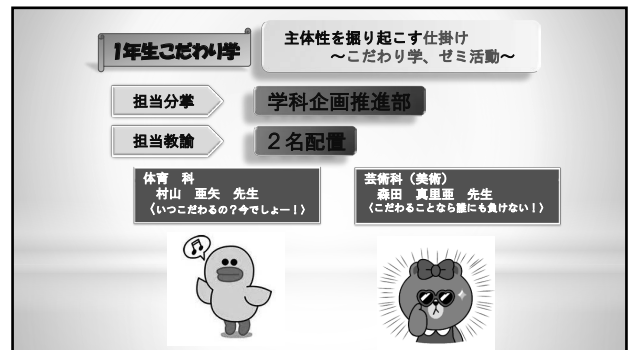
スライド8



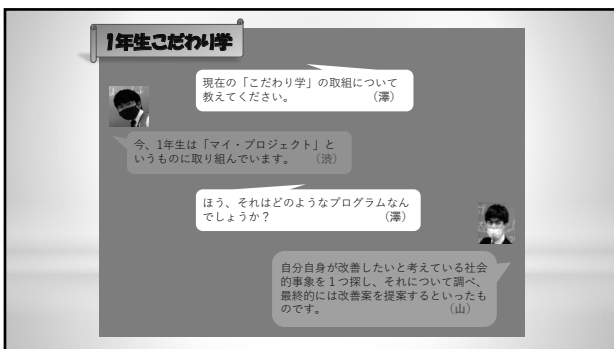
スライド9



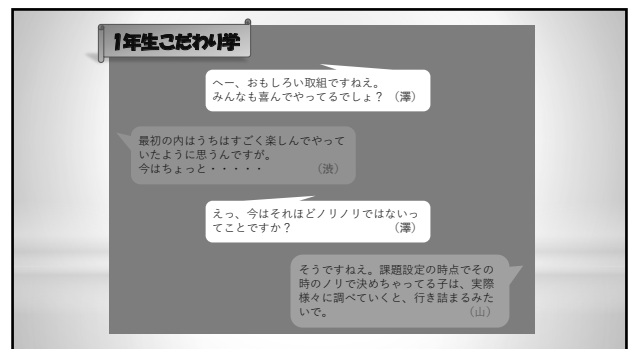
スライド10



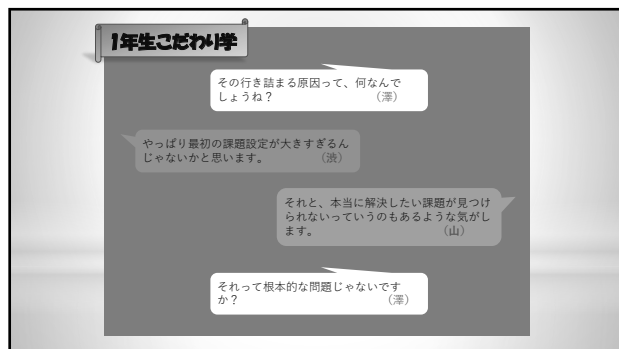
スライド11



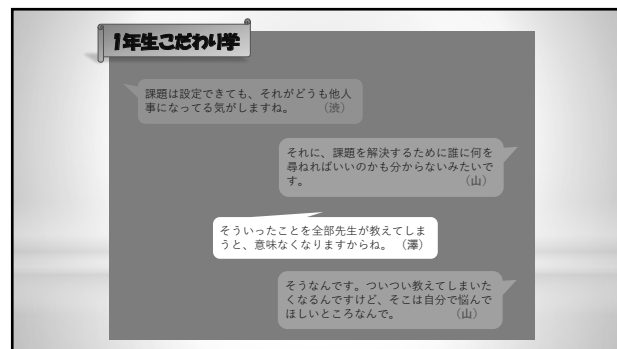
スライド12



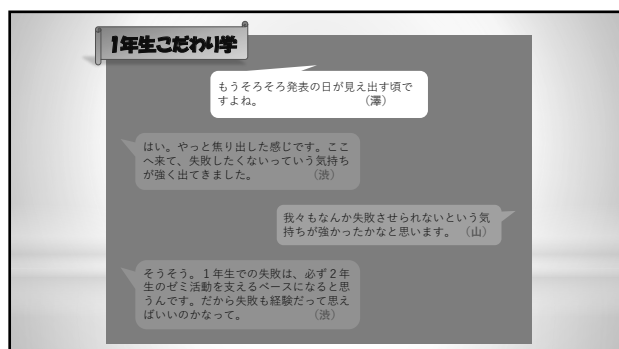
スライド 13



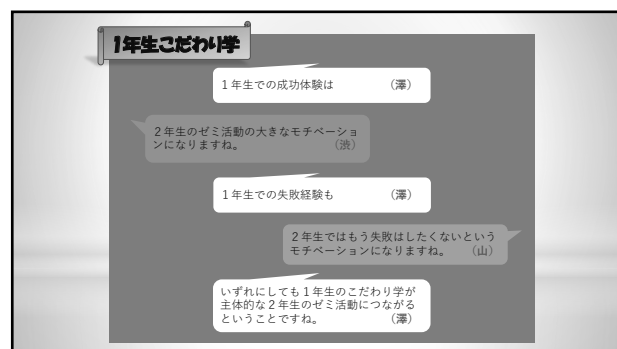
スライド 14



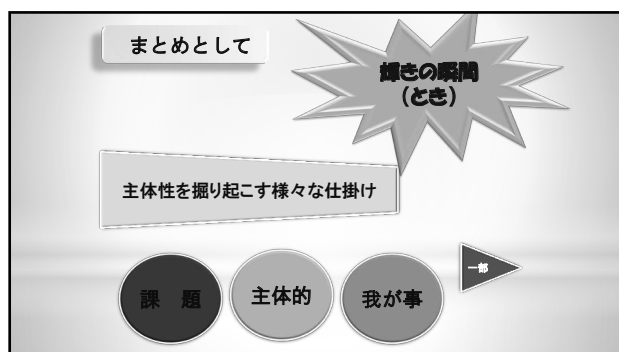
スライド 15



スライド 16



スライド 17



スライド 18

